

ユダヤとアラブの和解

ジェイコブ・プラッシュ

聖書において神はアブラハムに5つの約束をお与えになりました。主は彼に何度も現われましたが、アブラハムの最初の召しは創世記 12 章に記録されているものです。彼の名前が変えられる前、主はアブラムに語りました。『あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。』あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される』(創世記 12 章 1 節-3 節)

アブラハムに与えられた5つの約束は次のものです。

1. 神が土地を与えるということ。この約束は彼の子孫であるイサク（イツァク）、ヤコブ（ヤコブ）へと受け継がれました
2. 神がアブラハムを大いなる国とし、彼を祝福すること
3. アブラハムの名が大いなるものとなること
4. 神はまた「あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう」と言われました
5. 最後に「地上のすべての民族は、あなたによって祝福される」と言われました

一時、スペインは世界の大国であり、その時代の超大国でした。クリストファー・コロンブスがサンサルバドル島にスペインの国旗を立てた 15 世紀の終わりごろ、スペインは新世界を制していました。その高い地位は、フェルナンド 2 世とイザベルがドミニコ修道会に権力を譲り、異端審問を行うのを許可するときまで維持されていました。標的とされた犠牲者はユダヤ人たちだけではありませんが、確実に多くの迫害行為の対象となっていました。そしてフランシス・ドレークがスペインの無敵艦隊を沈めるやいなや、イギリスが海洋を支配しました。イギリスは成功を収めました。イギリスには、ユダヤ人であり、同時にクリスチャンであったベンジャミン・ディズレーリ（1804-1881）が登場しました。当時でもイエスを信じたユダヤ人が存在したのです。名前を挙げると作曲家のフェリックス・メンデルスゾーン（1809-1847）、ベンジャミン・ディズレーリ首相、また歴史家のアルフレッド・エデルステインなどの人物です。イギリスは当時強国であり、神がイギリスを祝福していました。イギリスはバルフォア宣言を公約し、ユダヤ人に聖地に戻る権利を

約束しましたが、後になってその契約を取り消し、ユダヤ人たちをオープンに連れて行かれるがままにしました。ユダヤ人たちは火で焼かれたのです。それはリバプールやコベントリー、ロンドンにおいても同じことです。

ユダヤ人たちがナチスの強制収容所から出てくると、ホロコーストが公になった後であるのに今度はイギリスの強制収容所に入れられました。しかしイギリスにはダービー将校（1879-1964）やウィングート将校（1903-1944）のようにイスラエルを支援する者たちもいました。またモーシェ・ダヤン（1915-1981）のような人物はウィングートの下で訓練を受けました。しかしグローバーや他の者たちはユダヤ人に敵対するイスラム系アラブを支持し、バルフォア宣言を破棄しました。イギリスはもはやその時点で海洋を支配してはいませんでした。あの戦争、電撃戦（1939-1941）の後、ウィンストン・チャーチル（第二次世界大戦でイギリスを勝利に導いた首相）を無敵だと信じられない人がひとりもいなかったのは興味深いことです。しかし1945年の選挙の7日前に「私はもうシオニズムの問題に何も関わりたくない」と発言した、その後には彼は選挙で敗退し、世界が驚嘆する結果となりました。

「あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう」これはユダヤ人のためではなく、彼らの祖父たちに約束された神のためです。それでも、アブラハムを通して地上のすべての民族が祝福されます。これはもちろんアブラハムの子孫であるメシアによります。さて、生物学的・人類学的なアブラハムの子孫は、ユダヤ国家とアラブ国家のふたつの国になりました。神はメシアのゆえにアブラハムの子孫を通してすべての国民を祝福されます。

キリストを受け入れ、福音を最も信じやすい2つの国や2つの民族があるとしたら、それはアブラハムの人類的な子孫——ユダヤ人国家とアラブ人国家——であると考えられるのもっともなことです。しかしながら、これは事実ではありません。海外の宣教師によれば、キリスト教に最も改宗させにくい2種類の人種は、アブラハムの直接の子孫であるユダヤ人とアラブ人なのです。その理由は社会的でも、歴史的でもありません。それ以上のものです。確かに頭で説明できる理由もありますが、本当の理由はそれ以上のものです。理由は霊的なものであり、神学的なものです。アブラハムの子孫であるメシアがその預言の成就であるために、アブラハムを通してすべての国々は祝福を受けます。しかしアブラハムの肉による親類、ユダヤ人とアラブ人は、アブラハムの子孫（単数）に最も反抗する者たちなのです。

預言者エレミヤは預言しました、『わたしの民は二つの悪を行なった。湧き水の泉であるわたしを捨てて、
【メシアがその湧き水、預言者イザヤが44章で、またヨハネ4章と7章

でイエシュアが語られた“マイム・ハイーム”を彼らに与えます。それはヘブライ語で“ハルアハ・ハコデシュ”と呼ばれる聖霊のことです。つまり聖霊を与えられるメシアを彼らが退けるということです] 多くの水ためを、水をためることのできない、こわれた水ためを、自分たちのために掘ったのだ。』(エレミヤ 2 章 13 節) ユダヤ人は霊的に破綻した別の宗教を作り出すということです。

ふたりのラビ

使徒の働きはガマリエルと呼ばれたラビを紹介しています。ガマリエルは使徒パウロの指導者でした。ガマリエルはまたもうひとりの非常に有名なラビ、ラビ・ヒレルという者の孫でした。パリサイ派の中にも 2 種類あり、ひとつはシャンマイ学派ともうひとつはヒレル学派でした。パウロはヒレル学派出身であり、ヒレルの孫であるガマリエルに指導され、そのガマリエルは「ミシュナ」、ユダヤ人の歴史の中でその死が記録されています。彼は非常に義なる人(ツァディク)であったので、ラビ・ガマリエルが亡くなったとき、地上から義が消え去ったとまで書かれています。ガマリエルはそのように見なされており、パウロの指導者はラビたちにそう見なされていたのです。パウロがその書簡の中で用いた文学的、解釈学的な手法はラビ・ヒレルから来たものです。パウロは聖書を扱う中で、ユダヤ的なミドラッシュを活用しました。現代までに至るまで、偉大なツァディクとされているラビ・ガマリエルは言いました。「イエスがメシアでなければ、キリスト教は滅びるだろう」(使徒 5 章参照)。しかしキリスト教は滅びませんでした。イエスはメシアに違いないのです。

ラビ・ガマリエルは他にも非常に有名な生徒たちを抱えていました。ひとりはおんケロスといい、ユダヤ教に改宗した“ガリーム (*Garim*)”でした。おんケロスは、「タルグム・おんケロス」と呼ばれ、ヘブライ語正典をアラム語に翻訳した「タルグム」に関して有名でした。ふたつの主要なタルグム(タルグムの複数形)があります。タルグム・ヨナタンとタルグム・おんケロスです。おんケロスは他の二人の有名なラビたちと同世代でした。それは使徒パウロとして知られているタルソのラビ・サウロ、また力強い金槌と呼ばれていたラビ・ヨハナン・ベン・ザッカイです。彼らは元来同級生でした。

ダニエルと山上の垂訓でイエスによって預言されていた紀元 70 年のローマの包囲の時、ラビ・ヨハナン・ベン・ザッカイはエルサレムからこっそりと外へ連れ出されました。それはヨセフスやエウセビオスによって記録されています。神殿の崩壊は当時のユダヤ人指導者に対して、大きな問題を提示しました。ダニエルは、第二神殿が破壊されるまでにメシアが来て、死ななければならないと預言していたからです。もはやそこには大祭司も、神殿も無くなりました。そこで、ラビ・ヨハナン・ベン・ザッカイは、現在のテルアビブに

近いヤブネという場所で会議を開き、ユダヤ教を再定義し、ヘブライ語の正典に新しい解釈を加えました。彼らは自分たちを正当化し、「私たちにはシナゴグ（会堂）があるじゃないか、それを神殿と置き換えよう。ラビたちをレビ人の祭司と置き換えよう。コルバニーム——ささげものがなければ、善行をその代わりとしよう」と考え、別のユダヤ教がその時点から発展し、後にタルムード的ユダヤ教、またラビ的ユダヤ教と呼ばれるものになっていくのです。その宗教は神殿でのいけにえを必要としたモーセやトーラーのユダヤ教とは大きく異なったものでした。血を注ぎ出すことがなければ罪の赦しはありません。

このようにラビ・ヨハナン・ベン・ザッカイはタルムード的ユダヤ教を始めました。この新しいユダヤ人の宗教は古いユダヤ教に基づいていました。

同じような変化がキリスト教内で起こりました。新生したばかりの信者が聖書を読むと、誰でもローマ・カトリックが聖書的なキリスト教ではないと気付きます——リベラルなプロテスタントやギリシア正教会も同じです。そして自分に正直なユダヤ人なら誰しも、タルムード的ユダヤ教がモーセや預言者のユダヤ教ではないことを認めます。ユダヤ人がイエシュア、イエスを退けたことは問題ではありません。それは問題の結果なのです。イエシュアは『もしあなたがたがモーセを信じているのなら、わたしを信じたはずです』（ヨハネ 5 章 46 節）と言われました。ユダヤ人の問題はイエスを退けたことにあるのではなく、彼らがモーセとトーラーを退けたことにあるのです。彼らがモーセとトーラーを本当に信じていたなら、イエスがメシアだと分かったはずです。メシアを退けたことは、トーラーを退けたことの悲惨な結果であるのです。

ラビによる書物の中で、その別の宗教を始めたヨハナン・ベン・ザッカイが死の床にあって泣き始め、弟子たちが来てこう言ったと書かれてあります。「ああ、力強い金槌よ、あなたはなぜ泣いておられるのか」そして彼は答えて言いました。「私はまさに神に会おうとしている、御名がほめたたえられるように。私の前にはふたつの道があり、ひとつはパラダイスへ、もうひとつはゲヘナ（地獄）へと続いている。彼が私をどちらに宣告されるか分からないのだ」死の床にあって、後にタルムード的ユダヤ教の創始者として知られるようになる「力強い金槌」は涙を流して恐れながら死に、自身が正しいことをしたか、間違ったことをしたかを知りませんでした。彼は、神が自分を天国に送るか、地獄に送るかを分からなかったのです。

これと対照的に、彼の級友であったタルソのラビ・サウロは死の床にあって、違ったことを語りました。『私は勇敢に戦い、走るべき道のみを走り終え、信仰を守り通しました。今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです』（2テモテ 4 章 7 節—8 節）すべてのユダヤ人がこのふたりの級友どちらかにつきます。すべてのユダヤ人がこのふたりの

ラビどちらかに従います。

さて、今度はアブラハムのもうひとつの子孫である、アラブ人を見てみましょう。
ムハンマドは“ズムズムの井戸”の近くで育ちました。ハッジ（メッカへの巡礼）はすでに存在していました。月の神であるアッラー崇拝はすでにカアバ神殿の中にありました。ハッジがあり、アッラーはあり、ズムズムの井戸はもうすでにそこにありました。それではムハンマドは何をどうやって始めたのでしょうか？父親の名はアブドゥラーといい、“アッラーのしもべ”という意味でした。ムハンマドの行ったことといえば、カアバ神殿に行き、太陰年の一日ごとの石（360の偶像）をひとつずつ取り除き、カアバ神殿にひとつの黒い石を残したことでした。ムハンマドの行ったことはただ、ユダヤ教やキリスト教、ゾロアスター教の影響の下で、古代アラビアの多神教を一神教化しようと試みたということです。ムハンマドは当時、キリスト教徒が互いに争わず、ユダヤ教徒が互いに争っていないのを見ました。彼はアラビア系部族が互いに虐殺し合うのを一神教を持つことによって止めることができると考えました。公に認められ、イスラム教で事実として認識されているように、ムハンマドは小児愛者でした。彼は54歳の年齢で6歳の少女と結婚し、9歳で彼女の処女を奪いました。イスラム教徒は彼を預言者と呼びますが、常識から考えるとムハンマドは性犯罪者なのです。

数年前、サウジアラビアの富豪が自家用ジェットでインドに行き、貧しい少女たち（その中には9歳の子もいました）を数百ドル（数万円）で買い、自国のハーレムに連れて帰るというニュース・ドキュメンタリーがテレビで取り上げられていました。「どうしてそんなことが出来るんだ？」と彼らが尋ねられると「何が悪いんだ、我々の預言者もしたことじゃないか」と返事を返していました。そうです、彼らにとってはそういう人物が預言者なのです。神が小児愛を聖いと見ていると私は思いません。ムハンマドは少女の処女を奪ったのですよ？最近ならカトリックの祭司に任命されるような男です。どうしてこのようなことが起こっているのでしょうか。見てみましょう。

テモテへの手紙において、パウロは結婚を禁じることは悪霊の教えだと言っています（1テモテ4章3節参照）。自然なことを禁止すれば、人は不自然なことを行います。アメリカではカトリックの大司教、司教、枢機卿らが、人生をめちゃくちゃにされている子どもたちを保護することなく、そのような性犯罪者を隠しているだけではなく、保護していることにより逮捕されています。そして捕まっても彼らは辞職しようとしません。教皇がその職をはく奪しないからです。これが聖い母なる教会でしょうか？私の母では全くありません。これは聖書的なキリスト教ではありません。イスラム教はキリスト教徒とユダヤ教徒の神を崇拝しているのではなく、ラビ的ユダヤ教もトーラーのユダヤ教ではありません。

『そこで、アブラムはロトに言った。「どうか私とあなたとの間、また私の牧者たちとあなたの牧者たちとの間に、争いがないようにしてくれ。私たちは、親類同士なのだから。』（創世記 13 章 8 節）アブラハムの家族、その民、彼の部族とロトの間に分裂が頻繁に起こり、イシュマエルとイサクの間にも分裂が起こり、最終的にはアブラハムの孫であったエサウとヤコブの間にも分裂が起こりました。

聞いたことがあるかもしれませんが、神学用語で「集団共有 (*corporate solidarity*)」と呼ばれる言葉があります。これは多くの人をひとりの人が代表するときに使われる神学的表現です。族長の名前は、族長から出てきた国を表す隠喩となりました。例えばこのため大患難は「ヤコブの苦難の時」（エレミヤ 30 章 7 節参照）と呼ばれているのです。ヤコブは“メタトロン”、主の使い、イエシュア、旧約聖書でのキリストの顕現と格闘し、名前をヤコブからイスラエルへと変えられました。

私やあなたはふたつの名前を持っています。主と会う前に持っている生まれながらの名前と、主と会った後に与えられる名前です。黙示録によるとこの名前がいのちの書に書きこまれています。私たちが新しい人のように振る舞うとき、神は私たちを新しい名で呼ばれます。私たちが肉に戻るとき、神は古い名で呼ばれます。そしてそれは創世記においても同じで、ヤコブが霊的な人のように振る舞ったとき、神は彼のことをイスラエルと呼びますが、彼が古い肉的な道に戻ってしまうとヤコブと呼ばれています。

ヤコブが主の使いと格闘したとき、それは彼のたましいにとっての闇夜の時であり、そこで彼は家族をふたつの部族、ヘブライ語でマハナインというふたつの宿営に分けました。ヤコブは夜明けまで格闘しました。聖書の象徴において夜は最も多く用いられる大患難の隠喩です。『夜回りよ。今は夜の何時か。夜回りよ。今は夜の何時か』（イザヤ 21 章 11 節）。『太陽は暗くなり、月は光を放たず』（マタイ 24 章 29 節）。『わたしたちは、わたしを遣わした方のわざを、昼の間に行わなければなりません。だれも働くことのできない夜が来ます』（ヨハネ 9 章 4 節）。『夜中の盗人のように来る』（1 テサロニケ 5 章 2 節）。賢い処女たちは夜でも見えるように油をともしびの中に備えておきました。雅歌では花婿は夜に花嫁のためにやって来ます。ヤコブは夜明けまで格闘しました。未信のイスラエルは患難全体を経験します。一方で（ユダヤ人と異邦人とでなる）教会は救い出されます。

『さらに、主の使いは彼女に言った。「見よ。あなたはみごもっている。男の子を産もうとしている。その子をイシュマエル（神は聞かれた——イシュマ・エル）と名づけなさい。主があなたの苦しみを聞き入れられたから。彼は野生のろばのような人となり、その手は、すべての人に逆らい、すべての人の手も、彼に逆らう。彼はすべての兄弟に敵対して住もう（NASB 訳では「兄弟の東方に住む」となっている）。』（創世記 16 章 11 節－12 節）こ

れがイシュマエルです。神は後になってアブラハムに『あなたの子、あなたの愛しているひとり子イサクを連れて』（創世記 22 章 2 節）と言われました。神は肉によってなされたことを何も認めません。しかしながら、イシュマエルがアブラハムの子孫であったために、神は彼に東の地を約束しました。しかしこれには付け加えることが他にもあります。

『包皮の肉を切り捨てられていない無割礼の男、そのような者は、その民から断ち切られなければならない。わたしの契約を破ったのである』（創世記 17 章 14 節）そして次にこの箇所を見てください。『そこでアブラハムは、その子イシュマエルと家で生まれたしもべ、また金で買い取った者、アブラハムの家の人々のうちのすべての男子を集め、神が彼にお告げになったとおり、その日のうちに、彼らの包皮の肉を切り捨てた』（創世記 17 章 23 節）ここで気付いてもらいたいのが、イシュマエルもこの時点では契約に含まれていたということです。

神の契約

『すると神は仰せられた。「いや、あなたの妻サラが、あなたに男の子を産むのだ。あなたはその子をイサクと名づけなさい。わたしは彼とわたしの契約を立て、それを彼の後の子孫のために永遠の契約とする。』（創世記 17 章 19 節）ご存知の通り、イスラム教はイシュマエルをイサクと置き換え、ムハンマドをキリストと置き換えています。イスラム教では実際に、旧約聖書のメシアに関する預言がイエスではなく、ムハンマドを指しているとまで教えています。その一方で次の 20 節では神がイシュマエルに約束を与えています。『イシュマエルについては、あなたの言うことを聞き入れた。確かに、わたしは彼を祝福し、彼の子孫をふやし、非常に多く増し加えよう。彼は十二人の族長たちを生む。わたしは彼を大いなる国民としよう。』（創世記 17 章 20 節）ユダヤ人はイサクやヤコブの子孫を通して十二人の族長から始まり、イシュマエルの子孫もそのようになりました。イシュマエルは割礼（ブリット・ミラー）によってその契約の中に組み込まれました。これは両者に適用されている約束があるということです。

『しかしはしための子も、わたしは一つの国民としよう。彼もあなたの子だから』（創世記 21 章 13 節）『神は少年の声を聞かれ、神の使い（定冠詞の付いた名詞「その神の使い」）は天からハガルを呼んで、言った。「ハガルよ。どうしたのか。恐れてはいけない。神があそこにいる少年の声を聞かれたからだ。行ってあの少年を起こし、彼を力づけなさい。わたしはあの子を大いなる国民とするからだ。』（創世記 21 章 17 節－18 節）

ここで子どもたち、イサクとイシュマエルの間に最初の分裂が起き、アブラハムのために両者に約束が与えられました。アブラハムとイサクを通して生じた家系の中で、あること

が起きました。創世記 25 章 23 節を開いてください。『すると主は彼女に仰せられた。「二つの国があなたの胎内にあり、二つの国民があなたから分かれ出る。一つの国民は他の国民より強く、兄が弟に仕える。」出産の 때가満ちると、見よ、ふたごが胎内にいた。最初に出て来た子は、赤くて、全身毛衣のようであった。それでその子をエサウと名づけた。そのあとで弟が出て来たが、その手はエサウのかかとをつかんでいた。それでその子をヤコブ（ヘブライ語のアコブから。ヤコブとはかかとの意味）と名づけた。イサクは彼らを生んだとき、六十歳であった。』（創世記 25 章 23 節-26 節）ここで 12 節に戻ってみてください。『これは…イシュマエルの歴史である』（25 章 12 節）気付いてほしいのが、創世記は神の靈感に導かれ、イシュマエルといイサク両者の系図をたどることに注目し、約束が与えられていたことや、十二の部族から始まったことも記しています。一方、23 節では「二つの国があなたの胎内にあり」とあります。この双子は母の胎の中で争っていました。

このことは創世記 3 章での人の墮落を思い起こさせます。キリストが教会のかしらであるように、夫は妻のかしらです（エペソ 5 章 23 節参照）。人間は墮落したため、あることが私たちの身に起こりました。実際多くのことが起こりましたが、そのひとつは墮落のために男性は鈍感になり、女性は過敏になったことです。夫と妻が救われるとき、多くの場合、妻が最初に救われます。もちろんこれには例外はあります。最初に夫が救われた場合、水が収められている容器の形を取るように、たいてい妻は徐々に救われます。しかし妻が最初に救われたとき、とても多くの場合、夫の救いを見ることは難しくなります。なぜ女性のほうが救われやすいのでしょうか？夫と妻が導きのために祈るとき、たいてい妻のほうが主の声を最初にはっきりと聞き取ります。なぜでしょうか？男性は鈍感だからです。男性は女性の敏感さに頼っています。

しかしながら神が良いことのために意図したものを、この世、肉の性質、悪魔はいつも悪のために用います。女性は敏感であり、聖霊の声を聞くことが容易であるのと同様に、偽りの霊によって惑わされやすいことも事実です。リーダーシップは男性です。なぜなら男性は霊的な誘惑に対してそれほど弱くないからです。蛇が女を欺いたことを覚えているのでしょうか。男性が結婚関係や家族において霊的に責任を取らなかった時はいつでも、災難が起きました。これはその人だけの問題ではなく、ずっと続く問題となったのです。アダムとエバ、アブラハムとサラがそうでした。サラが最初に計画したのに、後にその口やかましきによってアブラハムを説き伏せ、——「あの女を私の家から追い出してください」と言ったのです。夫や父親が家族の霊的リーダーシップに責任を持たない場合、この原則は私たちにとっても真実となります。これは自分だけに害を及ぼすだけでなく、その結果は聖書的に対処されるまであなたの子孫たちに引き継がれることとなります。

部分的にはこれがアブラハムに起こったことであり、サタンが繰り返し用いている策略に

陥ったのですが、現代の中東の問題が、この何世紀も前の女性の胎内で起こっていた争いにさかのぼるというのでしょうか？その通りです！ふたつの国、双子はとてもよく似ています。その状況を現在でも見ることができます。セファルディ系ユダヤ人とアラブ人は非常に似通っています。イスラエルにいるユダヤ人でも、アラビア語を母語として話す人たちがいます。セファルディ系音楽、イエメン系音楽、料理、そのほとんどがアラブ文化のものと同じです。

『父イサクは答えて彼に言った。「見よ。おまえの住む所では、地は肥えることなく、上から天の露もない。おまえはおのれの剣によって生き、おまえの弟に仕えることになる。おまえが奮い立つならば、おまえは彼のくびきを自分の首から解き捨てるであろう。』』（創世記 27 章 39 節－40 節）ここでエサウは恨みを抱くようになりました。

新約聖書を読むとエサウの罪が書かれてあります。その罪は繰り返されています。エサウは長子の権利を軽んじました（ヘブル 12 章 16 節参照）。さて、ヤコブはというと、彼はいつも神の祝福や約束を、自分の策略で独り占めしようとする謀略家でした。しかしヤコブがいつもそうした時、彼は窮地に陥りました。ヤコブは口がうまく、利口な者でした。ラバンが彼をだまそうとした時、彼はラバンをだまし返しました。ヤコブは、口はうまいのですが、ぎりぎりのところまで危機に瀕することが多々ありました。

長子の権利（相続権）

ユダヤ人の歴史を見てみてください。なぜホロコーストがあったのでしょうか。なぜ異端審問があったのでしょうか。なぜポグロム（虐殺）が起きたのでしょうか。なぜ自分たちの地であって平和が無いのでしょうか。それは律法の呪いだからです。ユダヤ人は紀元 70 年からのみち守れなくなったトーラーを守ろうとしています。トーラーを成就したメシアを受け入れなければ彼らは呪いの下にあります。すべてのユダヤ人が一つの契約かもうひとつの契約の下にあります——これに例外はありません。こんなことを彼らが信じないと言っても問題ではありません。ユダヤ人たちは律法の呪いの下にいます。人類は呪われましたが、イスラエルは神の教育手段となりました。彼らは神の律法を守ることが出来ませんでした。トーラーの目的は、神の律法を守ることのできない無力さから救い出してくれるメシアに目を向けさせることでした。律法はユダヤ人の実例を通して、私たちの墮落した性質、救いの必要性、自分自身の贖いを得ることへの無能さを教えてくれています。彼らは律法の呪いの下にいます。このことを認めているハシド派（超正統派）ラビの本を私は読みました。これらのことが起こったのは、自分たちがトーラーを守らなかったからだとそのような人たちは言います。しかし彼らが口にしないことは、自分たちがトーラーを守れないということなのです。彼らはラビ・ヨハナン・ベン・ザッカイの道に行ってしまう

いました。これがヤコブです。一方、ヤコブの兄弟は自分の長子の権利を軽蔑しました。

神はユダヤ人に与えるよりも多くの土地をアラブ人に与えました。ユダヤ人は世界に 1400 万人以下しかいません。ですが、イスラエルを取り囲んでいる国のアラブ人だけでも、ゆうに 1 億 4000 万人を越えています。従って、すべてを合わせた土地とその人口から考えると、神はユダヤ人を祝福するよりも、よりアラブ人を祝福していることが分かります。また富の問題があります。クウェート政府はロンドンを通して、石油だけで毎年 550 億ドル（約 5 兆 5000 億円）を循環させています。富に関しても、神はユダヤ人を祝福するよりも、アラブ人をより祝福しています。そのすべての土地、すべての人口、すべての富がありながら、彼らは長子の権利（相続権）を軽蔑しています。小さな一片の土地をほしがるのです。

神はこれをどう見ておられるのでしょうか。エサウについて語られていることに注目しましょう。『おまえはおのれの剣によって生き…』（創世記 27 章 40 節）ムハンマドの目標は、アラブ諸族が互いに争い合うのを止めることでした。アラブ民族が争い合うのを止める唯一の方法は、イシュマエルとエサウにかけられた呪いを逆転させることです。しかしその呪いは、ユダヤ人兄弟たちに対する律法の呪いが解かれたのと同じ方法によってでしか、解かれることはありません。メシアの十字架です——ユダヤ人がイエシュア・ハマシアハと呼ぶ方、またアラブ人がイエスア・ハマシアと呼ぶ方です。しかしながらムハンマドはその呪いを解くためにコーランに“ウンマ”と呼ばれるソラーを取り入れ、自分たちはひとつの国であり、ひとつの民族だと主張しました。

私はかつてロンドンのアラブ人の間で暮らしていて、神学校に通いながら毎週日曜日に彼らの中で伝道をしていました。私はそこへ脚立を持って行きました。私がそこにいたのは湾岸アラブ諸国で戦争が起こっているときで、イスラム教徒が集まってきたときに私は言いました。「あなたたちがコーランの言うようなひとつの国、ひとつの民族なら、ヨルダンのフセイン王はなぜ 12 日間で 1 万 8000 人ものパレスチナ人を殺したのでしょうか。それがなぜであるかを言いましょう。ケタブ（聖書）は正しくて、コーランは間違っているからです！私に教えてください。人が聖戦と呼ぶイランとイラクとの戦争を通してなぜ 50 万人のイスラム教徒たちが死んだのかを。『あれは聖戦じゃない』と言うかもしれませんが、イランに行って同じことを言うと殺されます。なぜ 50 万人もの人が死んだかを言いましょう。それは聖書が正しくて、コーランが偽りだからです！あなたたちはコーランが言うようなひとつの国、ひとつの民族ではありません。あなたたちは聖書の言うように分裂した国であり、分裂した民族なのです。あなたたちはアブラハムの子孫（イエス）を受け入れるまでひとつになることはありません。

どうしてクウェートがイラクによって侵略されたのでしょうか」と私は尋ねました。それが何故かを言いましょう。聖書が真実でコーランは偽りだからです。私がそう言った時には、激怒した多くのアラブ人に囲まれていて、彼らは私に向かって大声で怒鳴り始めていました。そこで私はアラビア語で主を賛美し始めたので、彼らの怒りはより激しくなるばかりでした。その人たちは怒り狂い、激怒していました。ある男がつばを吐きながら、お前を殺すぞと言ってきました。そこで私は「あなたたちはひとつの国やひとつの民族じゃない。私はサウジアラビアの国王がテレビで『イギリスの人たち助けてください！アメリカの人たち助けてください！キリスト教国助けてください！ジハードから私を救ってください！イスラム教徒の兄弟たちから私を救ってください！預言者たちの墓を守ってください！カアバ神殿を救ってください！』と言っているのを見ました。誰から救ってほしいのでしょうか？イスラム教徒の兄弟たちからです！「彼の剣はすべての人に逆らい、その子孫は分かれる」のです。ウンマというものはありません。その呪いを解きたいでしょうか。その呪いを解くことができる唯一の方はアブラハムの子孫（単数）です！

同じように、私はシオニズムが救いの道ではないことをユダヤ人の友人や家族に伝えます。ユダヤ人はヨーロッパで恐れながら暮らし、自分たちの地にあっても恐れながら暮らしています。その呪いを解きたいでしょうか。アブラハムの子孫（単数）です。そう言うかどうか。彼らも変わらないくらい腹を立てます。

創世記 28 章 9 節では、エサウがイシュマエルのところへ行き結婚しました。人類学において、すでにいとこであったイシュマエルの子孫と、エサウの子孫が親族間の結婚を行い、彼らが定住した地が東の地であること私たちは知っています。神はこのことをどのように思われているのでしょうか。聖書の中で最も長い章のひとつが創世記 36 章です。36 章はアラブ国家の家系と血統の記録です。なぜ神はみことばの中でそんなに多くのスペースをアラブ人に使っているのでしょうか。ただユダヤ人たちだけが彼らより触れられています。なぜなら、アラブ人がアブラハムの子孫であり、神さまがアラブ人に対して預言的な運命を握っておられるからです。しかし、中東において、ユダヤ人とアラブ人に起こる恐るべきことが預言されています。聖書には、ユダヤ人国家とアラブ人諸国に下るべき、未だ成就していない荒廢の預言があります。

神はその地を巡っての争いをご覧になり、どの地が誰のものかを決められました。神はモーセに語られました。

『民に命じてこう言え。あなたがたは、セイルに住んでいるエサウの子孫、あなたがたの同族の領土内を通ろうとしている。彼らはあなたがたを恐れるであろう。あなたがたは、十分に注意せよ。彼らに争いをしかけてはならない。わたしは彼らの

地を、足の裏で踏むほども、あなたがたには与えない。わたしはエサウにセイル山を彼の所有地として与えたからである。食物は、彼らから金で買って食べ、水もまた、彼らから金で買って飲まなければならない。事実、あなたの神、主は、あなたのしたすべてのことを祝福し、あなたの、この広大な荒野の旅を見守ってくださったのだ。あなたの神、主は、この四十年の間あなたとともにおられ、あなたは、何一つ欠けたものはなかった。」それで私たちは、セイルに住むエサウの子孫である私たちの**同族**から離れ（*神の目からは、ユダヤ人とセイルに住むアラブ人は同族と見えています*）、アラバへの道から離れ、エラテからも、またエツヨン・ゲベルからも離れて進んで行った。そして、私たちはモアブの荒野への道を進んで行った。主は私に仰せられた。「モアブに敵対してはならない。彼らに戦いをしかけてはならない。あなたには、その土地を所有地としては与えない。わたしはロトの子孫にアルを所有地として与えたからである。』（申命記 2 章 4 節－9 節）

彼らはあなたの親族だから、同族の土地を取ってはならないと言われました。私がこの地を与え、あの東の地はアラブの兄弟たちに属していると言われたのです。神は、彼らはあなたたちの同族で、その地は彼らのものだから、彼らのものを触ってはならないと言われました。そのすべての土地、すべての富、すべての民——モアブ、エドム、アモンは現在のヨルダンです。「それに触ってはいけません！それを取ってもいけません！私が彼らに与えたから」神は彼らに土地を約束し、相続権を約束しました。ですがエサウのように彼らはそれを軽蔑したのです。土地を耕す代わりに、彼らは意図的にその地を砂漠に変えました。その次に何が起こったのでしょうか？その後、彼らは兄弟であるユダヤ人に神が与えたものを奪おうとしているのです。

このことは同様に民数記にも記録されています。『さて、モーセはカデシュからエドムの王のもとに使者たちを送った。「あなたの兄弟、イスラエルはこう申します。』（民数記 20 章 14 節）「私を兄弟のように扱ってください。私もあなたを兄弟のように扱いましょう。貿易もし、良い隣人となり、友人になり、兄弟になるのです」これが神の望んでいたことでした。しかしヤコブはたくらみ、エサウは軽蔑します。

『「あなたの兄弟、イスラエルはこう申します。あなたは私たちに降りかかったすべての困難をご存じです。私たちの先祖たちはエジプトに下り、私たちはエジプトに長年住んでいました。しかしエジプトは私たちや先祖たちを、虐待しました。そこで、私たちが主に叫ぶと、主は私たちの声を聞いて、ひとりの御使いを遣わし、私たちがエジプトから連れ出されました。今、私たちはあなたの領土の境にある町、カデシュにおります [カデシュとはヘブライ語で“聖い”という言葉です]。どうか、あなたの国を通らせてください。私たちは、畑もぶどう畑も通りません。井戸の水

も飲みません。私たちは王の道 [これは今日までヨルダンに存在しています] を行き、あなたの領土を通過するまでは右にも左にも曲がりません。」しかし、エドムはモーセに言った。「私のところを通ってはならない。さもないと、私は剣をもっておまえを迎え撃とう。」イスラエル人は彼に言った。「私たちは公道を上って行きます。私たちと私たちの家畜があなたの水を飲むことがあれば、その代価を払います。ただ、歩いて通り過ぎるだけです。」しかし、エドムは、「通ってはならない。」と言って、強力な大軍勢を率いて彼らを迎え撃つために出て来た。こうして、エドムはイスラエルにその領土を通らせようとしなかったため、イスラエルは彼の所から方向を変えて去った。』(民数記 20 章 14 節-21 節)

『こうしてイスラエル人の全会衆は、カデシュから旅立ってホル山に着いた。主は、エドムの国の領土にあるホル山で、モーセとアロンに告げて仰せられた。「アロンは民に加えられる。』(民数記 20 章 22 節-24 節)

これはイスラエルにとって悪い時期でした。アロンはもう亡くなろうとしていました。イスラエルはただ通り過ぎようとしたのに、その兄弟はそこに来てはならないと言っていました。「私たちは良い関係を望んでいます。親族なのですから。私たちはアブラハムの子孫でしょう。あなたたちが水を売りたいのならよろしいです。私たちはただ通り過ぎただけなのですから」それでも彼らは「いいえ」と言います。

神さまがカナン人に関してヘブル人に言われたことを思い出してください。「除き去りなさい！アマレク人も除き去りなさい！ペリシテ人も除き去りなさい！」しかしアラブ人に対してはどうでしょうか？「彼に触れてはならない。彼はあなたの兄弟で、私はそれを与えたから。その土地は彼のものなのです。彼はあなたに対して優しくないが、私が何とかしよう。彼に触れてはならない」しかし彼は自分の相続権を軽蔑し、今日までそうしているのです。ヤコブの態度、モーセの態度を持って、イスラエルは平和のうちに暮らそうと何度も努力してきました。

どのようにして終わるのでしょうか？

私たちはこれがゼカリヤ 12 章で終わることを知っています。しかし、本当の結末は 12 章ではなく、ゼカリヤ 14 章です。その箇所は千年王国でのイエスの支配について語っていて、国々がエルサレムにやって来て、仮庵の祭り（スコット）を祝います。ゼカリヤ書によると、仮庵の祭りは千年王国の支配の象徴です。このため、イエスの姿が変わったとき、ペテロは三つの幕屋を造りたいと言ったのです。ペテロはそれが千年王国、メシアの王国の始まりであると思いました。そこにはモーセがいて、エリヤがいて、メシアがいたからで

す。天に挙げられた人、そして復活した人、イエスがそこにはいました。これが千年王国だと思ったことでしょうか。「私が三つの幕屋を造ります」ペテロはそれがメシアによる、仮庵の祭りの成就だと考えたのです。

この時代には、国々は来て、メシアをエルサレムで礼拝します。エルサレムはコーランでは一度も登場しません。対して聖書では新旧約聖書両方で何度も何度も登場します。アラビア語で“アルクート (*Alkoots*)”と呼ばれる場所がありますが、それがエルサレムだという証拠は何もありません。このことはキリストの再臨をもっても終わりません。あることが起こります。これから説明する状態に中東は行き着きます。国連はそれを実現することができません。アメリカはそれを実現しません。アラブ連盟はそれを実現できません。誰もそれを実現しないだろうし、誰も実現することは不可能です。それはひとつのこと、たったひとつのことによって実現します。イエスが戻られて、ダビデの座から支配することによってです。

イザヤ 19 章が、キリストの千年王国の支配の期間に起こることを教えてくれています。

『その日、エジプトからアッシリヤへの大路ができ、アッシリヤ人はエジプトに、エジプト人はアッシリヤに行き、エジプト人はアッシリヤ人とともに主に仕える。その日、イスラエルはエジプトとアッシリヤと並んで、第三のものとなり、大地の真ん中で祝福を受ける。万軍の主は祝福して言われる。「わたしの民エジプト、わたしの手をつくったアッシリヤ、わたしのものである民イスラエルに祝福があるように。」』(イザヤ 20 章 23 節-25 節)

わたしの民エジプトとはどういうことでしょうか？わたしの手をつくったアッシリヤとはどのようなことでしょうか？神のものであるイスラエル。このように終わりが来ます。平和の君がダビデの王座から治める時、平和が訪れます。それ以前には偽りの平和があるでしょうが、これが本当の平和になります。

創世記はヤコブとエサウが和解した時に起こることを垣間見させてくれています。ヤコブはペヌエルで主の使いと格闘した時に、実際エサウと和解しました。そこであることが起こりました。ヤコブは自分の人生の中の最も暗く、恐ろしい時にひとり残されました。彼はエサウが来るのを考えて、片方が打たれても、片方が生き残るように子どもたちをふたつの宿営に分けました。ヤコブはエサウが自分を襲うと思っていたのです。しかしあることが起こりました。

『エサウは彼を迎えに走って来て、彼をいだき、首に抱きついて口づけし、ふたり

は泣いた。エサウは目を上げ、女たちや子どもたちを見て、「この人たちは、あなたの何なのか」と尋ねた。ヤコブは、「神があなたのしもべに恵んでくださった子どもたちです」と答えた。【あなたのしもべなんて!】それから女奴隷とその子どもたちは進み出て、おじぎをした。次にレアもその子どもたちと進み出て、おじぎをした。最後に、ヨセフとラケルが進み出て、ていねいにおじぎをした。それからエサウは、「私が出会ったこの一団はみな、いったい、どういうものなのか」と尋ねた。するとヤコブは、「あなたのご好意を得るためです」と答えた。エサウは、「弟よ。私はたくさんに持っている。あなたのものは、あなたのものにしておきなさい」と言った。ヤコブは答えた。「いいえ。もしお気に召したら、どうか私の手から私の贈り物を受け取ってください。私はあなたの顔を、神の御顔を見るように見えています。あなたが私を快く受け入りれてくださいましたから。』（創世記 33 章 4 節－10 節）

何世紀にもわたってラビたちは、メシアの時代にはヤコブとエサウが和解したように、ユダヤ人国家とアラブ人諸国が和解すると正しく語っていました。あなたは想像できるでしょうか？ユダヤ人とアラブ人がお互いに兄弟と呼び合って、恵みや義、兄弟愛において競い合う光景を。ユダヤ人がこれを受け取ってくださいと言い、アラブ人が「いいえ、あなたが持つておいてください」と言うことを。またユダヤ人がアラブ人を見て、自分は創造主の顔を見るようにあなたを見ていると言うことを。これはいつの日にか実現します。神は嘘を付くことができません。しかしお気づきでしょうか。それが起こるのを私は待つ必要がありません。私はそれを、ユダヤ人がメシアであるイエシュア、アブラハムの子孫に対して信仰を持つごとに目にしています。アラブ人がアブラハムの子孫であるイエシュアに信仰を持つときに、それは起こっています。私は、ユダヤ人とアラブ人が兄弟としての交わりをもって歩んでいるのを見てきました。それはいつの日にか実現します。しかし今日、この時にもそれは実現しているのです。

私たちのイスラエルでのミニストリーは伝道活動を支援しています。私たちが支援している伝道師たちはユダヤ人、アラブ人両方に福音を伝えています。私はそれが起こるのを待つ必要がありません。アブラハムの子孫がすでにそれを成就させているからです。私はイスラエル政府の言うことに関心はありません。アラブ政府の言うことにも関心がありません。国連が言うことにも関心がありません。アメリカ政府やイギリス政府の言うことも気にしません。私に関心を持っているのはただ聖書の語ることです。私は何が起こるかを知っています。

各国政府は中東を思い通りにすることはできません。国際機関は中東を思い通りにすることはできません。そして、何にもましてサタンは中東を思い通りにすることはできません。神こそが中東を思い通りにすることができるのです。